

目的 前記 NaOCl 液中に入れ、尿素の量を正しく清浄布に付けた尿素量と、時間経過後の液中の有効塩素消費量との間の一定の関係を確かめ、その結果により人工尿汚染布の水洗と、洗剤洗いによる尿素残留汚染と、有効塩素の消費量で比較し報告した。今回は尿汚染布、実際の家庭洗たくに則した場合を考へて実験を試みたので報告する。

方法 ① 低試尿、乳児尿 4 種、25ヶ月児尿、成人混合尿 3 種、人工尿（尿素 1.74% 液）
② 尿の検量線作製、尿：（布）：NaOCl 液（有効塩素量 180 ± 2 ppm）の比を $35:1$ （10g）： $3000cc$ を基とし、液中尿量を一定間隔で減し、30分経過後、ヨウ素法により残留塩素量を順次測定し、有効塩素量を算出する。③ 尿の経日変化（有効塩素消費量）、1～9日迄調べた。④ 尿汚染後の放置時間が水洗除去に及ぼす影響を、20分～24時間迄調べ、また振盪時間の影響を調べた。⑤ 洗い方は、洗剤の有無、振盪洗いと洗たく機洗いの比較、また基本量尿汚染布、実用尿汚染布、接触尿汚染布等の除去効果を比べた（浴比 1:30、温度 $30^{\circ}C$ ）。

結果 ① 検量線によれば月令の少ない 3、4ヶ月児は、人工尿より有効塩素消費量が少ない。6ヶ月以上児の尿と成人混合尿とも尿によるバラツキは大きく、離乳中期以後の尿の有効塩素消費量は、成人混合尿の範囲内にはいるとみてもよい。② 尿は無菌に近い状態で処置し、冷蔵庫内に保存すれば、有効塩素消費量については経日変化はないとみてもよい。③ 尿汚染布は汚れてから洗うまでは短かいがよいが、放置 5 時間以上は水洗効果には差はない。④ 洗たく機洗いは、振盪洗いより効果は大きい、極く微量汚染は残る。